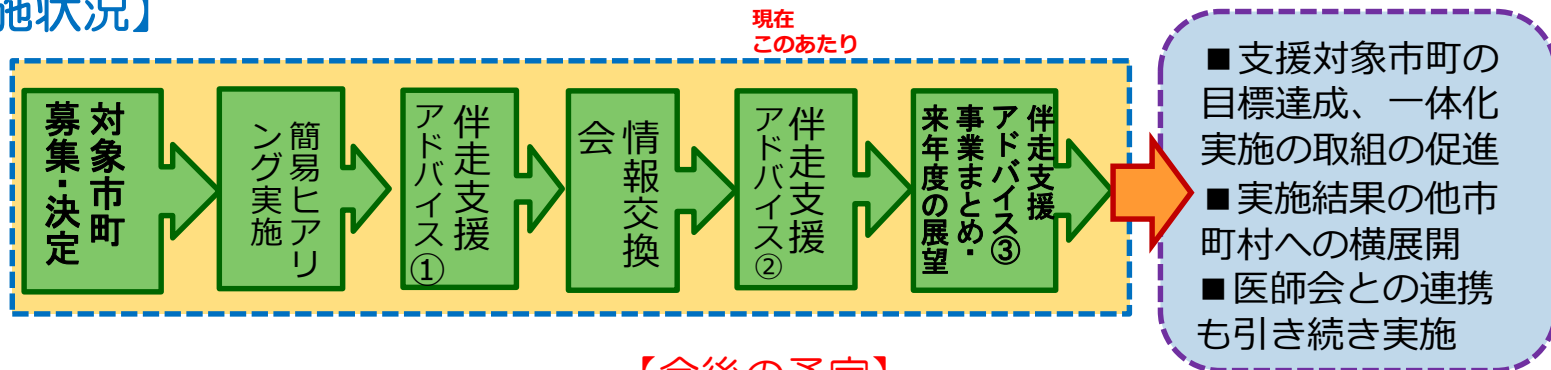


【事業概要】

- 令和元年～2年に、通いの場への専門職派遣モデル事業を実施し、市町における専門職による通いの場への取組を支援。（延べ6市町、専門職：PT・OT・管理栄養士・歯科衛生士）
- 令和3年度から、市町村が取り組む一体的実施への伴走支援事業を開始。
アドバイザー：神奈川県立保健福祉大学 田中 和美教授（栄養学）
- 4市町（秦野市、海老名市、厚木市、寒川町）に対し、それぞれ年3回のアドバイザー派遣を実施。

【令和3年度実施状況】

【伴走支援方法】
 ■市町村ごとの課題に寄り添いながら継続的に伴走。県職員が毎回同行し状況を直接ききとり、まとめを実施、次の支援策を検討。



【取組の詳細】

- 伴走支援アドバイス①～③
 - ・ヒアリングによる課題抽出及び基礎的な助言
 - ・課題に対応した支援
 - ・定期的なモニタリング及び助言
- 神奈川県医師会との連携
 - ・神奈川県医師会在宅医療トレーニングセンター研修事業として、市町村職員や専門職を対象とした研修を実施
- 事例の横展開
 - ・対象4市町間の情報交換会を実施、取組内容の情報共有、質疑、アドバイスを実施

【今後の予定】

- 3回目の支援で事業まとめ、来年度への展望
- 令和3年度前半は、コロナ禍により通いの場の活動が停滞していたため、今後は、通いの場での活動に関する支援を重点的に実施
- 栄養士会・理学療法士会などの専門職の団体と連携し、通いの場への専門職派遣事業も併用し、効果的に市町村が実施する、地域の高齢者の健康状態の底上げを図る取組を支援していく

①市町村の個性に合わせて

A市町村

既存の事業を活用して効果的な支援を実施したい

B市町村

データ分析を活かした事業を展開したい

C市町村

地元の大学と連携したプログラムを活かしたい

D市町村

これまで通いの場に対して支援を行ってこなかったので知見を得たい

②個別に寄り添いながら

分析に使う指標や値は？

〇〇がいいのではないのでしょうか。
△△市での例では・・・

データ分析で思ったような結果がでない・・・

では、条件を〇〇のようにしてはどうでしょうか。

県職員 県アドバイザー 市町村

先生と市町村支援がんばります



なるほどそうか！

神奈川県PRキャラクター かながわキンタロウ

既存の仕組みを活かしましょう！
特別に新しく事業を行う必要はないですよ。
他部署との連携が大事

コロナ禍で連携できる通いの場が減っている

連携しやすそうなところからモデルケースとして始めるのがよいですよ。

他市町村の取組も参考にしたい！

4市町で情報交換会やりましょうか。県広域連合にも声をかけましょう。

③市町村のもやもやを解決(したい)

④3回の支援で目指す姿

A市町村

個別支援終了後の他者との交流を保ったフレイル予防の継続的实施

B市町村

データ分析をもとに、包括やサロン運営者などと連携しながら一体的実施に取り組む

C市町村

様々な主体と連携した一体的実施

D市町村

効果的な支援内容、目標の立て方、評価方法など、マニュアルを作る

さらに

⑤結果のまとめ

⑥他市町村への横展開

寒川町

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施における通いの場への伴走支援 概要

参加者

- 健康づくり課 保健師、管理栄養士
- 高齢介護課 保健師、事務職
- 寒川町生活支援コーディネーター（以下C○、町社協職員）
- 茅ヶ崎市保健所 歯科医師、歯科衛生士

第1回 伴走支援（5/24）

話し合いの内容	結果
<p>○事業全体に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全庁的な体制整備のあり方を知りたい <p>○ハイリスクアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低栄養の個別支援方法、目標の考え方を整理したい。 <p>○ポピュレーションアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて専門職が関わるため支援方法を知りたい 	<p>○寒川町の目指す姿を共有していく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的は健康寿命と平均自立期間の延伸 ・目標は、個と集団への支援が連動した事業展開が実施できる。通いの場の特性の把握と効果的な支援内容を考案できる。 <p>○介入する通いの場の選定方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の特性が出ている地区や団体など選ぶ（介入しやすい） <p>○高齢者の目指す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体重増加でなく、生活支援につなげた目標を設定していく

第2回 伴走支援（11/10）

話し合いの内容	結果
<p>○ハイリスクアプローチ実施結果報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続訪問のあり方を知りたい ・健康状態不明者の訪問では元気な方が多かった。勧めても健診に行く様子ではない。 ・健診受診率をあげたい。 <p>○ポピュレーションアプローチの企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率の高い地区で選定 <p>○生活支援C○との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・C○は地区会の参加を通して住民と繋がりがあ、地区特性を把握している 	<p>○ハイリスクアプローチをデザインする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フロー図を作成し動向を確認していく <p>○個と集団の支援の連動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問結果を判断し、通いの場など社会資源につなげる <p>○生活支援C○の調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通いの場の団体との橋渡しを企画 <p>○健診受診率の向上に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポピュレーションの機会を活用 ・インセンティブ、ナッジ理論

厚木市

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施における通いの場への伴走支援 概要

参加者

- 国保年金課 保健師、事務職
- 介護福祉課 保健師、事務職
- 健康づくり課 保健師
- 地域包括ケア推進課 保健師
- 厚木保健福祉事務所 歯科医師、管理栄養士、保健師

第1回 伴走支援（5/25）

話し合いの内容	結果
<ul style="list-style-type: none"> ○事業全体に関すること <ul style="list-style-type: none"> ・5課にわたっている ○ハイリスクアプローチ <ul style="list-style-type: none"> ・医師会との連携による糖尿病性腎症重症化予防事業を実施 ・レセプト分析による二次骨折予防実施予定 ○ポピュレーションアプローチ <ul style="list-style-type: none"> ・大学との連携事業の対象者の選定について ・通いの場の全体像が把握できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ○厚木市の目指す姿を共有していく <ul style="list-style-type: none"> ・要介護者の減少と医療費の削減 ○ポピュレーションアプローチ <ul style="list-style-type: none"> ・今回は低栄養で対象者を抽出してみる ・運動機能の向上だけでなく、口腔ケアも加える ・場の選定はまず見学に行き連携しやすいか判断する

第2回 伴走支援（11/22）

話し合いの内容	結果
<ul style="list-style-type: none"> ○ハイリスクアプローチ <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病性重症化予防は19名実施 ・二次骨折予防事業はこれから実施 ○ポピュレーションアプローチ <ul style="list-style-type: none"> ・実施地区の選定方法を知りたい ・来年度のフォローアップについて知りたい ・通いの場の把握方法（地域福祉推進委員等への調査で把握している） ・通いの場の実施方法（現在は出前講座の申込みで実施している） 	<ul style="list-style-type: none"> ○事業の次の展開を検討しておく ○ハイリスクアプローチ <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の選定は、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査から検討する等、増やす方向ですすめていく。 ○ポピュレーションアプローチ <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援事業で把握している団体から着手すると把握しやすい ・ポピュレーションアプローチ実施時に質問票等を活用することでハイリスクの抽出につながる ○保健福祉事務所の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・オーラルフレイル推進員、フレイル対策等に取り組んでいる。

海老名市

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施における通いの場への伴走支援 概要

参加者

- 地域包括ケア推進課 保健師
- 健康推進課 保健師
- 国保医療課 保健師、事務職

第1回 伴走支援（6/3）

話し合いの内容	結果
<ul style="list-style-type: none">○データの活用方法○コロナ禍の影響によるフレイル化○通いの場へのアプローチ○一体的実施の事業実施体制の整備について○市特有の課題 血圧、脂質、腎機能が受診勧奨基準値以上の割合が多い、骨折が多い。	<ul style="list-style-type: none">○包括単位でKDBデータを分析、それぞれ結果に応じてハイリスク・ポピュレーションと対応を変えて実施する○コロナ禍においても、フレイル予防の取組は必要。アンケートを通して通いの場の利用者ニーズを把握する○包括との連携が重要○15項目のチェックリストをアセスメントに使ってハイリスクアプローチにより課題解決につなげる

第2回 伴走支援（9/21）

話し合いの内容	結果
<ul style="list-style-type: none">○ハイリスクアプローチの対象範囲○糖尿病性腎症予防のための検査の実施と専門医への受診奨励に関するかかりつけ医への働きかけの程度○フレイルチェックリストなど、各種チェックリストの違い、活用方法○低栄養の対象者への対応について	<ul style="list-style-type: none">○自治体のマンパワーや人口により適宜対象範囲を設定する。○無理のない範囲でかかりつけ医に専門医への受診をはたらきかける。○チェックリストはどれを使っても良いが、比較のため同じものを使いつづけること○低栄養の方への対応について<ul style="list-style-type: none">・KDBでの対象者抽出・包括からの対象者拾い上げ・介入の仕方、頻度○包括とも連携しながらモデル地区での健康相談教室の取組を進める

秦野市

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施における通いの場への伴走支援 概要

参加者

- 高齢介護課 保健師、管理栄養士、歯科衛生士
- 健康づくり課 保健師

第1回伴走支援（6/8）

話し合いの内容	結果
<ul style="list-style-type: none">○対象者へのアプローチについて○ポピュレーションアプローチについて<ul style="list-style-type: none">・通いの場・評価基準・方法について・高齢者質問票○今年度の方針	<ul style="list-style-type: none">○拾い上げた方のフォローの仕方について、優先順位など<ul style="list-style-type: none">・痩せていて元気な方への対応○通いの場への積極的な関与を進める<ul style="list-style-type: none">・通いの場で得た情報を蓄積・対象者を様々な支援事業やイベントへとつなげていく。既存の事業を使うことがポイント。・ポピュレーションの対象者から、KDBを使ったハイリスクアプローチへつなげる。○今年度は栄養と口腔に絞って実施していく

第2回 伴走支援（8/20）

話し合いの内容	結果
<ul style="list-style-type: none">○健康セルフチェック票によるアンケートについて○やせていても元気な方への食生活の指導について○データのクロス分析について○医師会と連携した栄養指導○低栄養と経済困窮について	<ul style="list-style-type: none">○「健康カルテ」を利用するとよい○BMI20以下（18.5～20.0以下）を把握できるようにする○BMI（20以下）でフィルターをかけ、さらに「体重減少」でクロスし、傾向をみる。できれば地域別に分析する○医師と連携する際、使う書式は医師の記載が簡素に済むものがよい○低栄養、体重を切り口にアプローチした結果、経済困窮など困難事例を発見し、多職種連携にて支援につなげることも、一体的実施のアウトカムになる